

福島の森林・林業再生に向けたシンポジウム

福島の森と木の
親子体験
オンライン教室
2022

林野庁

目 次

1.	主催者挨拶	1
2.	後援者挨拶	2
3.	福島森と木の親子体験オンライン教室 2022 プログラム	5
4.	出演者プロフィール	6
5.	福島森のハカセになろう 資料	9
	1) 放射線ってどんなもの?	9
	2) 福島森、今どうなってるの?	16
6.	きのこの不思議	28
7.	森と木に親しもう	28
	福島のもり 応援隊動画	29

主催者挨拶

林野庁 森林整備部長 小坂 善太郎

「福島の森林・林業再生に向けたシンポジウム～福島の森と木の親子体験オンライン教室 2022～」に御参加いただきありがとうございます。

東日本大震災から11年が経過し、多くの方々の御尽力により、インフラの整備が進むなど復興は着実に進展しております。しかしながら、今なお避難生活を続けている方々も多くいらっしゃいます。

林野庁では、「福島の森林・林業の再生に向けた総合的な取組」（平成28年3月9日 復興庁、農林水産省、環境省）及び「「第2期復興・創生期間」以降における東日本大震災からの復興の基本方針」（令和3年3月9日 閣議決定）に基づき、森林・林業の再生に向けて、放射性物質モニタリングや各種実証等による知見の収集、住居周辺の里山の再生、放射性物質を含む土壌の流出を防ぐための間伐等の森林整備とその実施に必要な放射性物質対策等を実施しているところです。

また、原木しいたけ等の特用林産物の産地再生に向けた取組を進めるため、令和3年4月に福島県、福島県森林組合連合会、福島県木材協同組合連合会と「里山・広葉樹林再生プロジェクト」を立ち上げ、関係者と連携して地域ごとの再生プランを作成し、これに基づき、今年の秋から広葉樹林の再生に向けた伐採を開始しました。これからも地域の実情を踏まえ、福島の森林・林業再生に向けた取組をしっかりと進めていくことが大切であると考えております。

このような中、これまでの取組から得られた成果を多くの方々に知っていただくため、情報発信とコミュニケーションの一環として、本シンポジウムを平成26年度から開催しています。

一昨年からは、新型コロナウイルス感染症の流行により、会場に集まる形式で行うことが困難な状況となり、オンライン形式でのシンポジウムを開催しています。参加者の皆様からは「親子でとても楽しく参加できた」、「コロナが収まったら家族で福島に行きたいと思った」等の多くの温かいご意見をいただいています。

今年度も、これまでよりさらに楽しんで参加いただけるよう、また、効果的な学びの機会となるよう、様々な工夫をしております。当日のライブ配信だけでなく、動画視聴による事前学習や体験キットによるなめこ栽培・木工クラフトにも親子で取り組んでいただけます。これらにより、原発事故の影響を受けた福島の復興について、ご参加の皆様の理解が深まるとともに、福島の森林・林業再生の一助となることを期待しております。

最後になりましたが、今後とも福島の森林・林業の再生に向けた取組にご理解とご協力を賜りますようお願い申し上げますとともに、皆様の今後益々のご健勝とご活躍を心よりお祈り申し上げます。開催の挨拶とさせていただきます。

後援者挨拶

福島県農林水産部次長（森林林業担当） 柳田 範久

このたびは、「福島の森林・林業再生に向けたシンポジウム」に多数御参加いただき、誠にありがとうございます。

また、主催される林野庁を始め関係者の皆様には、本県の森林・林業の復興・再生に向け、多大な御支援・御協力を頂いておりますことに対し、改めてお礼申し上げます。

さて、東日本大震災及び原発事故から、今年で11年が経過し、森林の再生に向けた取組は着実に進展しているものの、本県の森林・林業を取り巻く環境は、いまだ放射性物質の影響を大きく受けている状況にあります。この間、県といたしましては、森林の放射性物質モニタリング調査や各種実証事業、安全安心な山菜・きのこの生産出荷体制の支援のほか、森林整備と放射性物質対策を一体的に行う「ふくしま森林再生事業」などに、関係機関と連携して取り組んでまいりました。

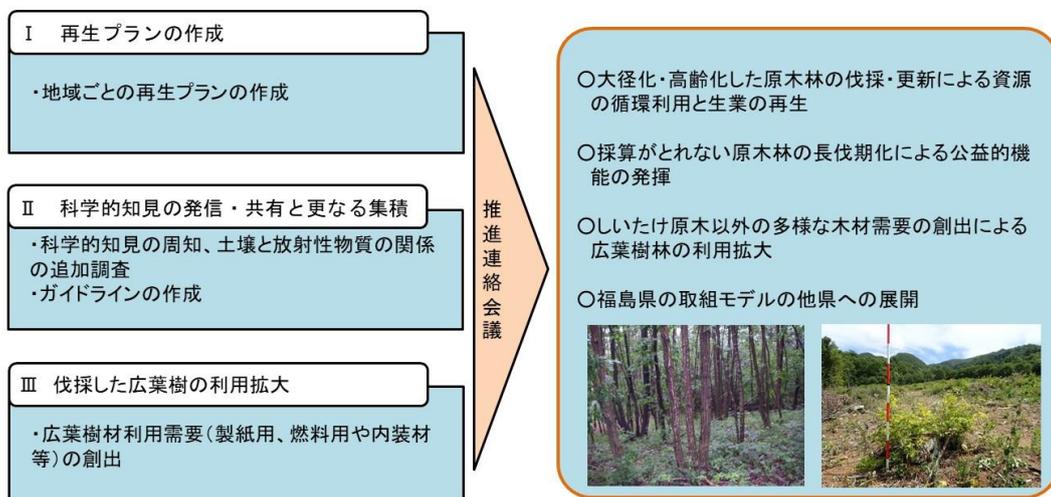
また、昨年度からは、特に放射性物質の影響が大きい広葉樹林の再生に向け、国・県・林業関係団体からなる「里山・広葉樹林再生プロジェクト」を立ち上げ、広葉樹林の計画的な再生に向け、今年度よりその取組を本格化させているところです。

イベントに参加される皆様には、この機会に福島県の森林について知っていただくとともに、体験を通じて森林の恵みを実感していただきたいと思っております。

最後に、引き続き福島県の森林・林業・木材産業に対し、御支援と御協力を賜りますようお願い申し上げます。

里山・広葉樹林再生プロジェクト

放射性物質の影響により、しいたけ原木の生産量が大幅に減少。原木となる広葉樹の循環利用に向け、広葉樹林の計画的な再生に向けた取組をプロジェクトとして関係者が連携



※推進連絡会議構成員：林野庁、福島県、林業関係団体 オブザーバー：森林総合研究所

後援者挨拶

福島市長 木幡 浩

本日は、「福島の森林・林業再生に向けたシンポジウム」にご参加をいただき、誠にありがとうございます。

福島市では、原発事故によって影響を受けた森林において、森林施業と路網整備を一体的に実施し、森林の公益的機能を維持しながら放射性物質を削減し、森林の再生を図る「ふくしま森林再生事業」に取り組んでいます。また、温室効果ガスの排出削減に向けた木材利用の促進や森林内での様々な体験活動等を通じて森林保全に対する意識を醸成する森林環境教育の推進に努めているところです。そのような中、当シンポジウムが福島市からライブ配信されることは大変意義深いことであると考えております。

ご参加される皆様には、今回のシンポジウムをきっかけに、少しでも福島の森林・林業について関心を持っていただければ幸いです。

終わりに、当シンポジウムのご盛会と皆様方のご健勝と心より祈念いたしまして、ご挨拶とさせていただきます。

福島市の森林・林業の再生に向けた取り組み

>ふくしま森林再生事業

森林の多面的機能の維持向上を図るため、間伐等の森林施業と路網整備を一体的に実施しています。

>木材利用の促進

「道の駅 ふくしま」と併せて、県産材を含んだ木製遊具等を備えた屋内こども遊び場を整備し、利用者に木材の魅力をPRしています。



(屋内こども遊び場 木製遊具)



(森林・林業学習会の様子)

>森林環境教育の推進

市内小学校を対象に森林・林業学習会を開催し、森林内での様々な体験等を通じて森林保全に対する意識の醸成を図っています。

後援者挨拶

港区環境リサイクル支援部地球温暖化対策担当課長 瀧澤 真一

本日は森林・林業再生に向けたシンポジウムにご参加いただきありがとうございます。

木は、地球温暖化の主な原因となる二酸化炭素を吸収し、光合成をすることにより成長します。また、吸収した二酸化炭素は、木に固定され、木が伐られても木材として建物や家具などに利用されれば、固定されたままとなるため、地球温暖化防止につながります。

森づくりは、「伐って、使って、植える」というサイクルが大切であり、そのサイクルを回すことは、日本の豊かな森林を守るとともに地球温暖化対策にもつながります。

森林を持たない港区では、森林資源を豊富に有する全国の自治体と連携し、林業の活性化及び低炭素化社会の実現に向けた取組として、平成23年度から、区内の建築物等に全国の自治体から産出される木材の活用を促す、「みなとモデル二酸化炭素固定認証制度」を開始しました。

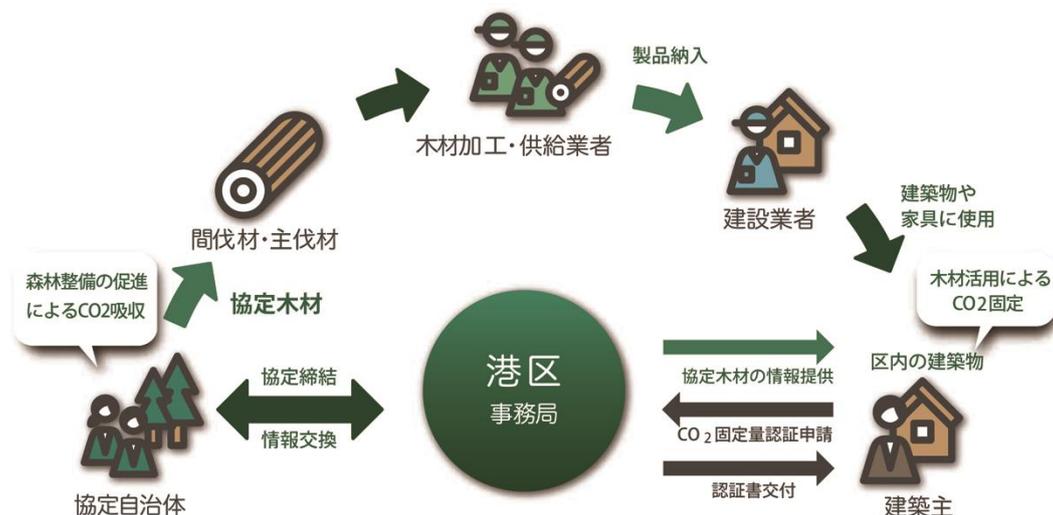
今年度、全国の自治体との連携の輪は79自治体まで広がり、福島県の自治体では平成28年度から「古殿町(ふるどのまち)」、平成29年度からは「いわき市」と連携を開始しており、福島県産の木材は高輪ゲートウェイ駅や、みなと科学館などで使用されています。さらに今年度は新たに福島県「埴町(はなわまち)」と連携を開始する予定です。

今回のシンポジウムは都市部の生活の中では、経験できない、森や木について、「学び」、「遊び」、「体験」ができるプログラムになっておりますので、親子でお楽しみいただければ幸いです。

みなとモデル二酸化炭素固定認証制度

区内で建てられる建築物等に国産木材の使用を促すことで、区内での二酸化炭素固定量の増加と国内の森林整備の促進による二酸化炭素吸収量の増加を図っています。

これは、港区と林産地の自治体が連携して地球温暖化防止に貢献する、日本で唯一の制度です。



福島森林・林業再生に向けたシンポジウム
「福島の森と木の親子体験オンライン教室 2022」

令和4年11月19日（土曜日）14:00～16:00

プログラム

主催者挨拶

I. 「福島の森のハカセになろう」

国立研究開発法人 森林研究・整備機構 森林総合研究所

震災復興・放射性物質研究拠点長 篠宮佳樹さん

国立研究開発法人 森林研究・整備機構 森林総合研究所

きのこ・森林微生物研究領域 主任研究員 小松雅史さん

II. 「きのこの不思議」

(有) M&Aふぁーむ・わたなべ（福島県三春町）

渡邊俊史さん

III. 「森と木に親しもう」

(有) 児山製作所 ((株) マストロ・ジェット) (福島県南会津町)

児山文彦さん

(株) マストロ・ジェット (福島県南会津町)

渡部安衣さん

終了

しゅつえんしゃ
出演者プロフィール

「福島森のハカセになろう」

国立研究開発法人森林研究・整備機構 森林総合研究所
震災復興・放射性物質研究拠点長
篠宮 佳樹（しのみや よしき）さん

◇プロフィール-----

東京農工大学農学部林学科で森林科学を学びました。森林における窒素の動きを明らかにする研究をして、「四万十川上流部における物質流出特性」という論文で博士号を取得しました。その後、作業路を作り間伐した時に溪流から出ていく養分を測る仕事をしました。震災後は、放射性物質が溪流からどれくらい出ていくのかを調べました。

●趣味・好きなこと

旅行や鉄道が好きで、日本の全ての都道府県に行ったことがあります。釣り、写真、テニス、山歩き、読書、音楽も好きです。なお、まだ行ったことのないところへ行くのが楽しみです。小さなことでも発見があるからです。

「福島森のハカセになろう！」

国立研究開発法人森林研究・整備機構 森林総合研究所
きのこ・森林微生物研究領域 主任研究員
小松 雅史（こまつ まさぶみ）さん

◇プロフィール-----

大学では樹木の病気に興味があり、「マツ材線虫病」という日本中のマツを枯らしてしまう病気や、「サクラてんぐ巣病」というサクラの枝がほうき状になって花が咲かなくなる病気のメカニズムを調べる研究をしました。震災後は野生きのこや樹木について、放射性物質の吸収に影響する要因を調べる研究を行っています。特に種類や環境による濃度の違いに興味があります。

●趣味・好きなこと

サッカー、ハンドボール、時々キャンプなど外で体を動かすことが好きですが、土日に家でぼんやり過ごすのも大好きです。

「きのこの不思議」

有限会社M&Aふぁーむ・わたなべ（福島県三春町）

渡邊 俊史（わたなべ としふみ）さん

◇プロフィール

旅行のお供をして日本と世界を股にかけるお仕事をしていましたが、震災を機に実家のしいたけ栽培に取り組みました。しいたけ栽培は大変なことも多いですが、毎日すくすく育つ姿を見るのがとても楽しみです。そして、しいたけの栄養をたっぷり使った長ねぎの栽培もやっています（使い終わった菌床を活用）。これからはしいたけを中心に、いろいろな野菜を美味しく作ることに、そして農業を通して地元を目いっぱい楽しく魅力的にするのが夢です。

●きのこの好きなところ：調理法ひとつでまったく違う顔を見せてくれる百面相

●趣味・好きなこと：乃木坂 46、LiSA、乗り鉄、小説を書くこと

「森と木に親しもう」

有限会社児山製作所（株式会社マストロ・ジェッペット）（福島県南会津町）

児山 文彦（こやま ふみひこ）さん

◇プロフィール

木工所の2代目で40年間木工に関わっています。仲間と一緒に地域の木工技術を生かした「木のおもちゃ」を作るために「(株)マストロ・ジェッペット」を設立しました。デザインが良く品質も良い安心・安全な「木のおもちゃ」づくりをしています。最近では木の種類を生かしたアート作品的な製品も作っています。

●好きな木とその理由：ブナ（春の新緑が好き）

●趣味・好きなこと：老後の楽しみで始めたギター

「森と木に親しもう」

株式会社マストロ・ジェッペット（福島県南会津町）

渡部 安衣（わたなべ あい）さん

◇プロフィール

デザイナーと職人さんが一緒に作った“おもちゃ”や“木製品”を販売する仕事をしています。木は大きく育つのに時間がかかる、だからこそ製品になったあとも長く使うことができます。自分が気に入ったデザイン（形）であればそこに「大事に使おう」という気持ちも足されます。そういったことをみなさんにお伝えできればいいなと思います。

●好きな木とその理由：ヤマザクラ（木の色がかっこいいから好き）

●趣味・好きなこと：音楽を聴くこと、緑をみること

【全体司会】

株式会社セントフォース所属 フリーアナウンサー（福島県福島市出身）

長久保智子（ながくぼ さとこ）さん

◇プロフィール

平成7年から5年間、福島テレビでアナウンサーをしていました。県内の色々なところ取材・中継でかけまわる日々はとても充実していました。大学時代は生物学専攻、大学院では心理学と手仕事についての研究をしました。現在はアナウンスの仕事しながら、編み物作家の活動もしています。小さい頃から野山を駆けまわるのが大好きでした。よく親戚の家の裏山で、タケノコやキノコをとって皆で焼いて食べたりしたことを覚えています。

●趣味・好きなこと：編み物・紡ぎ・バイク・ギター